

# 「レガシー」とは？

## 「レガシー」について

- 近年、オリンピック・パラリンピック大会では、「レガシー」という概念が重視されています。これはオリンピック・パラリンピックというスポーツイベントが開催都市や開催国にもたらす効果について、「一時的、一過的」なものとするのではなく、中長期的、永続的な「遺産(レガシー)」として、積極的に位置づけていくことが重要視されていることに基づくものです。
- オリンピック・パラリンピック大会の「レガシー」には、大会開催に伴い整備される会場施設や交通インフラなどの「有形(ハード)のレガシー」だけでなく、新たに生みだされる雇用やサービス、社会活動、人々の意識の変化などの「無形(ソフト)のレガシー」が含まれます。
- 中長期的、永続的な「遺産(レガシー)」の創出を通じて、開催都市や開催国の持続的な発展、課題の解決につなげていくことを前提にオリンピック・パラリンピック大会を捉えると、それは、一過的な国際スポーツイベントに留まらない、今後の「持続可能な未来」の実現に対し、大きな役割、機能を有するものであると考えることができます。

## 「ロンドン大会」と「東京大会」のレガシーについて

- ロンドン大会では、社会・経済的な課題を抱えていたロンドン東部地区に選手村を設置し、オリンピック・パラリンピックの開催後には、関連施設を住宅等に転用するとともに、大会に向け整備した社会インフラ等を活用し、大規模な都市の再開発が行われました。

| 分野        | 2012年のロンドン大会における主なレガシーの内容                                      |
|-----------|--|
| スポーツのレガシー | 新たな若手アスリートの設備や環境の改善(例:新規の予算事業の増大) / 草の根のコミュニティスポーツの拡大 など       |
| 都市のレガシー   | ロンドン東部地区の再生(例:選手村の住宅への転用) / 鉄道インフラの整備・更新 / 建設事業を通じた女性等の社会進出 など |
| 環境のレガシー   | 施設整備・運営に伴う環境へのインパクトの低減の取組 / 大会施設周辺における植樹活動 など                  |
| 社会のレガシー   | 青少年を対象としたスポーツ等に関する教育事業の実施 / ボランティア活動の担い手の増大 / 健康増進事業への投資増加 など  |
| 経済のレガシー   | 大会準備・開催による直接的・間接的な雇用の増加 / 期間中・期間後の観光客の増加 など                    |

資料)IOC資料より作成

- IOCに提出された2020年東京大会の立候補ファイル(招致に向けた書類)では、大会施設の整備による物理的なレガシーによる「東京の新しい中心の再活性化」に加え、街路樹100万本の植樹による「グリーンロード・ネットワーク」の構築、地域スポーツの活性化や健康的なライフスタイルの促進など、社会、スポーツに関するレガシーを創出し、社会全体に浸透していくことが謳われています。